家族、メンタルクリニック等との情報共有をベースに実践する発達障害者支援の一考察について

〇一井　仁志
村田　華穂　・　山郷　擁子

はじめに

- 障害者職業センターを利用している発達障害者の中には自身の理想にこだわるが故に就職に関する状況が進展しにくい利用者がいますが、本人のニーズに応じて家族及び関係機関に支援の協力要請を行ってチームを組み、本人及び関係者間で方針をすり合わせながら支援を展開する場合があります。

- このようなケースにおいて、家族、メンタルクリニック等とチームで支援を行う上での情報共有の必要性と、情報共有のしやすさを醸成する上で必要とされる実践ベースで行う取り組みの参考の一つにしていただけると幸甚です。

Aさん（男性。発達障害者）

●発達障害の主な特性

①「今の関心事」に注意が向くと「その他のこと」を考えることが難しい。

②「できそう」と感じたことについては指示を聞くが、そうでないときは指示を聞かない。また、指示されることよりも自分のアイデアを優先させるために意見を変えない。

③これらのことから、他者からは「反抗している」「周りと調和していない」と映る。

④配付された紙ベースの資料を捨てると身体が削がれる感覚に襲われ、捨てられない。

●エピソード（一例）

【発達障害者のワークシステム・サポートプログラムの利用開始予定日の前日】

・早朝５時頃自宅を発って数時間かけて空港に向かった。

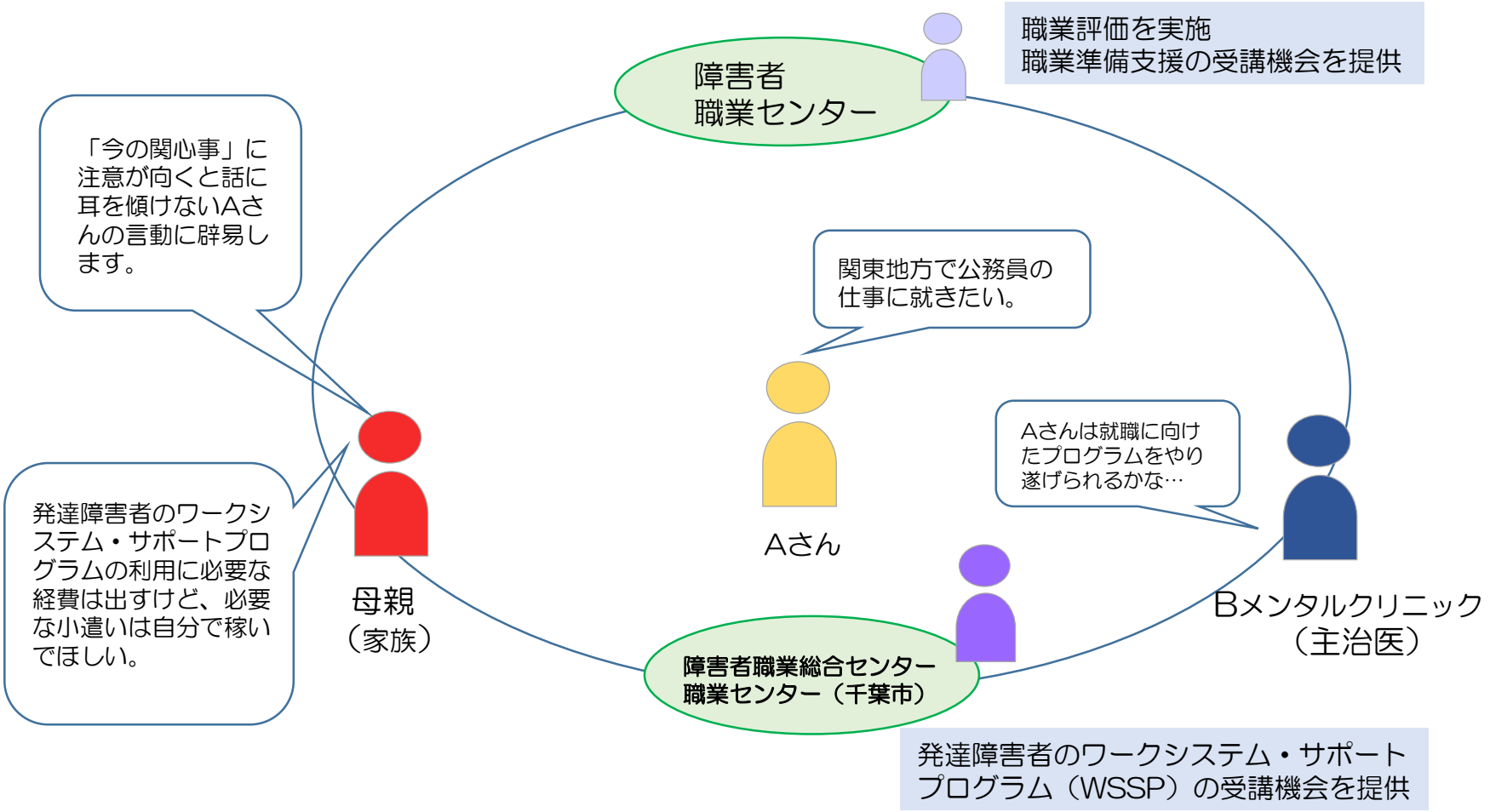
→当日は悪天候により北海道内の大半の公共交通機関や飛行機が運休予定であった。

【職業準備支援等のプログラムの様子から】

・得意であるPCを使った作業にはテキパキと取り組むが、アサーション講習やSSTで習った報連相のやり方については「（報連相は）座学で覚えればよい」と考えたり、ミスを指摘されることを恐れて実践しない。

※Aさんにセルフケアを求めたり関係者が環境調整を行っても状況が進展しにくく、周囲が疲弊してしまう。

Aさんの支援ネットワーク（2021年12月時点）



経　　緯

支援の主体		（時　　期）
障害者職業センター	障害者職業センターに来所→職業評価（アセスメント）を実施	2021年5～6月
	ケース会議（就職活動の方針を検討）	2021年6月
	WSSPの見学	2021年7月
	職業準備支援を受講（ケース会議２回）	2021年9～12月
障害者職業総合センター　職業センター	WSSPを受講（ケース会議３回）	2022年1～4月
障害者職業センター	ハローワークにてケース会議を実施	2022年4月
	Bメンタルクリニックのケース会議の事前打ち合わせ	2022年5月
	Bメンタルクリニックにてケース会議（5月）→母親と共有（6月）	2022年5～6月
	自治体が運営している障害者就業・生活支援センターと類似する機能を有する就労支援機関（以下「自治体独自の就労支援機関」という）から職場実習についての情報収集	2022年6月

就職活動の方針（2021年６月時点）

●就職に向けた取り組みや職業準備支援の受講の前段として、発達障害者のワークシステム・サポートプログラム（以下、「WSSP」という。）を受講しましょう。

●以下の具体的目標の達成にあたっては、自分の言動に対する相手の映り方について支援者と整理したり、整理したことに基づいて相手のルールに合わせた立ち振るまい方を支援者と相談して決め、実践を積み重ねることから始めましょう。

＜具体的目標＞
①相手のルールを理解し、それに合わせた立ち振るまいを身につけること
②職場で求められるルール、マナーを習得すること
③仕事上現れる障害特性や配慮事項を整理し、事業所に説明できるようにすること

※本事例では関東地方に新型コロナウィルス症感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令されたことを踏まえ、当初方針を一部変更し、2021年９月～12月の間で職業準備支援を、2022年１～４月の間でＷＳＳＰを受講した。

（参考）職業準備支援で取り組んだ支援（一部）

①相手のルールを理解し、それに合わせた立ち振るまいを身につけること

行　動

・終了時間になっても作業を続ける。

約３ヶ月の受講期間する。作業プログラムを全てコンプリートしたい。

自分にとって優先順位が高いことを優先したい。

Aさん

アプローチ

・予想される他者から見た映り方をフィードバック

・Aさんと望ましい行動について相談を積み重ねる。

・所定の時間になったら行う行動を本人と相談した上で紙面で示し、共有。

11時50分になったら作業の途中でも手を止めることをやってみますか？

どのような行動を取るとよいか、一緒に考えてみましょう。

続けてできれば「ルールを分かって行動ができる方」と相手から思ってもらえますよ。

Aさん

障害者職業センター
担当カウンセラー

効　果

・徐々にだが、時間を意識してできるようになった。

（特に企業面接の決定等、本人にとっての強化子になり得ることがあったとき）

11時50分になった。手を止めれば、２km先の飲食店に行っても午後のプログラムに間に合う。

11時50分になった。今日は午後に面接がある。途中だけど、明日やろう。

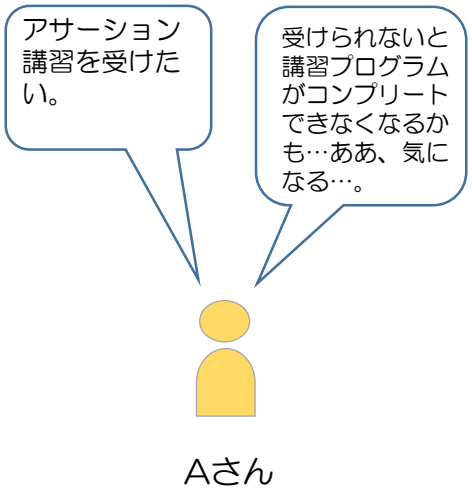
Aさん

（参考）職業準備支援で取り組んだ支援（一部）

②職場で求められるルール、マナーを習得する

行　動

・スタッフがプログラムで他の受講生に対しているときに近寄り、一方的に質問する。

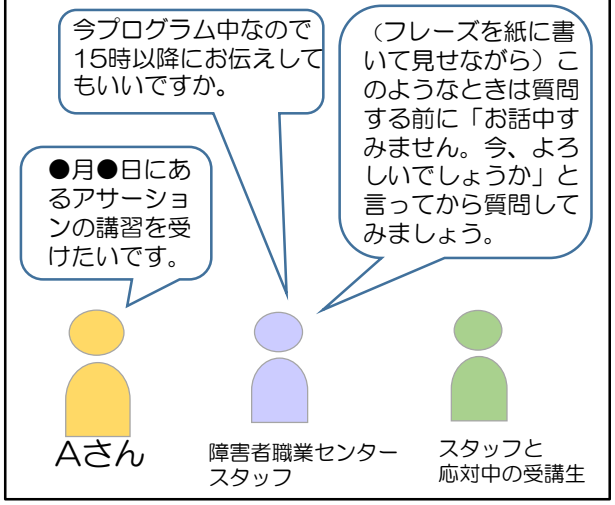


アプローチ

・紙面に具体的なフレーズを示し、マンツーマンでロールプレイを都度実施し、成果をフィードバック。

・アサーション講習で学んだことを踏まえて望ましい台詞を支援者と考え、カウンセラー３名＋Aさんの枠組でロールプレイを実施。

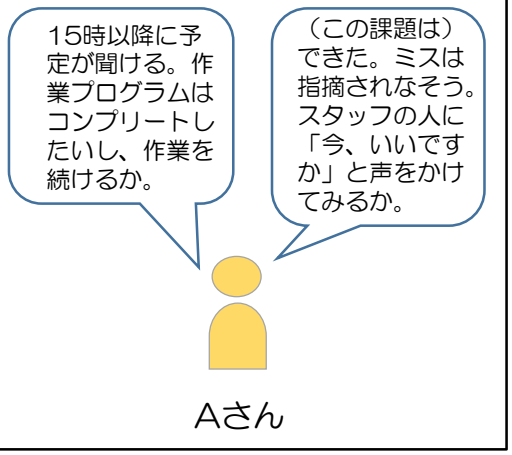
・優先すべきことと、質問を受ける時間を提示（必要に応じて書いて説明）。



効　果

・完成した課題の提出など、自身がスタッフから指摘される可能性が薄い場面では少しずつタイミングよく声をかけられるようになった。

・徐々にプログラム中に支援者に自身の要求について質問することは見られなくなった。



（参考）WSSPでの様子（一部）①

●指示受け
→指示されたとおりに作業をすることよりも、自らのアイデアを優先したいと考え、指示受け時に「はい、分かりました」と応じることを好まない。

聞き取ることができる時	聞き取れない時
・経験のある作業で、できそうだと感じている時 ・誰かと競い合い、勝ちたいと思っている時	・天候が悪い時（雨が降りそう、朝方雨に濡れたなど） ・他に気になることがある時 ・指示者に対して拒否的な感情がある時 ・指示を聞きながら「できない」と判断した時

（参考）WSSPでの様子（一部）②

●作業計画・計画立案

・興味を持ったことに関する行動計画をスムーズに立てるが、その際に優先順位を検討する、効率のよい段取りを検討する、ともに行動する他者の都合を勘案することは苦手である。
→ホワイトボードや書面で当面の予定の情報共有と更新の仕組みづくりを実施。

＜指示者が行なう配慮例＞
①指示者と本人で情報共有するためのノートを準備し、両者がいつでも確認でき、情報更新する仕組みをつくる。
②①の「情報共有と情報更新の仕組み」を最初に確定し、活用を継続する。

●紙資料の取捨選別

・「紙＝思い出、そのため紙を大切にしたい」という思いから紙を捨てにくい傾向が見られる。
→情報の更新を確実にするため「アーカイブ封筒」を作成。「まだ捨てたくないけど、不要な紙」はアーカイブ封筒に保管。

本事例における母親との情報共有の取り組み①

（時　　期）

【主な取り組み及び共有内容】

2021年5～6月

障害者職業センターに来所
→職業評価（アセスメント）を実施

●具体的目標の達成等、必要な準備を整えてから就職を目指す等の支援方針をAさんも交えて共有

2021年6月

ケース会議（就職活動の方針を検討）

●以下をホワイトボードに書き、家族からの経済的なバックアップが必要な旨を説明
①ＷＳＳＰを受講する場合の交通費と食費
②ＷＳＳＰ及び職業準備支援を受講する場合のメリット、デメリット

2021年7月

WSSPの見学→利用について検討

2021年9～12月

職業準備支援を受講（ケース会議２回）

●具体的目標の達成等、必要な準備を整えてから就職を目指す等の支援方針をAさんも交えて共有

2022年1～4月

WSSP受講

ケース会議１～２回目
●オンライン方式

ケース会議３回目
●ハイブリット方式

（Aさんの）見立てについては率直に情報提供してほしい

母　親

●以下を共有
①「就職活動の進め方として、福祉サービスを活用し、障害特性に合わせて支援を受けながらＡさんが就労に必要な事柄を体験していくことも一案」等の就職活動の方針

②このことを踏まえて職場実習を利用して事業主から見たＡさんの見立てのフィードバックを受けることの必要性

本事例における母親との情報共有の取り組み②

公務員もいいけど、一般企業や就労継続支援事業所等を検討するのも一方法ですよ

ハローワーク担当者

【主な取り組み及び共有内容】

（時　　期）

2022年４月　ハローワークにてケース会議を実施

●以下を共有
①「就職活動の進め方として、福祉サービスを活用し、障害特性に合わせて支援を受けながらＡさんが就労に必要な事柄を体験していくことも一案」等の就職活動の方針

②職場実習を利用して事業主から見たＡさんの見立てのフィードバックを受けることの必要性

2022年５月　Bメンタルクリニックのケース会議の事前打ち合わせ

●事前に送付する手紙と添付資料の内容をAさん、母親に説明して合意を得る。

※手紙の内容は14～15ページ目、別添資料の内容（一部）は7～10ページ目に記載

2022年５～６月　Bメンタルクリニックにて
ケース会議（５月）
→母親と共有（６月）

●主治医の方針を共有　※詳細は16ページ目に記載

2022年６月　自治体が運営している障害者就業・生活支援センターと類似する機能を有する就労支援機関から職場実習についての情報収集

●本人、母親に事前に了承を得た上で担当者に以下を説明
①本人の障害特性や配慮事項、今後取り組む目標、職業準備支援やWSSPの取り組みの一部、現在の就職活動の方針

②母親も職場実習を利用する必要性を認識している旨や母親が抱える困り感（例：Aさんが公務員以外の仕事に目を向けない）

本事例における主治医との情報共有の取り組み

（時　　期）

【事前準備したこと】

2021年12月　WSSP開始前

①主治医とコンタクトを取ることの理由を説明し、Aさんに合意を得る。

②Bメンタルクリニックスタッフを通して、主治医と連絡が取れる日時を調整。

③主治医（Bメンタルクリニック）に電話で連絡し、以下の内容を共有。
- 職業準備支援の受講状況
- 関係者からAさんの言動の映り方についてフィードバックを受けながら就職に向けた準備を整えることの必要性

④主治医に対して、共有内容を踏まえてWSSP利用に係る主治医の意見書の作成を依頼。

2022年５月　ケース会議前の事前調整

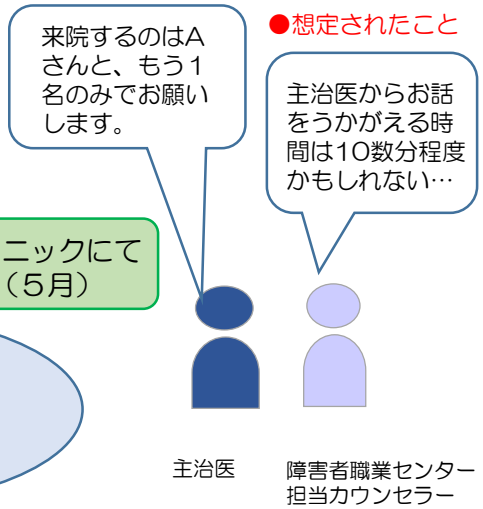
①以下の書面を用意
- 衝動性の対処と指示どおりに作業を行いたくない場合のアプローチの２点に絞ってエピソードをまとめた手紙（A４版１枚程度）
- 添付資料として職業準備支援の受講状況を取りまとめた資料
- WSSP担当者が作成した当該プログラムの受講状況の内容を取りまとめた資料

②上述の手紙と送付する資料は主治医に送付する前に、Aさんと母親に内容を確認し、同意を得る。

③上述の手紙と資料はBメンタルクリニックにて行われるケース会議前に主治医に送付。

2022年５月　Bメンタルクリニックにてケース会議（５月）

参加者：
主治医、Aさん、
障害者職業センター
担当カウンセラー１名



主治医に宛てた手紙の内容①

1　衝動性の対処について

- 以下のような例から、「いまの関心事」に注意が向くと、「その他のこと」を考えることが難しくなる行動特徴があります。これにより結果としてルールを守れなかったり、他者から見て「相手の話に聞く耳を持てない」「指示を守らない」等に映ることもあります。このような場面における自身の映り方や望ましい行動の取り方の提案、ご自身のセルフケアを求めるだけでは限界がうかがえるため、他に有効な対処があれば教えていただきたく存じます。
- 併せて服薬による対処も選択肢に含めることが必要な否かについてもご助言いただきたく存じます。

【当センターで見られたエピソードの一例(一部)】

- 障害者職業センターで行った職業準備支援では、約３ヶ月の受講期間内に作業プログラムを全てコンプリートすることを優先し、作業においては終了時間になっても手を止めないことがあった。ただし、これらについては本人と相談をした上で決めたルールを視覚化する（例：11時50分になったら途中でも手を止める）、代替案（例：個別対応をする）を提案することで多少は改善することはあった。

主治医に宛てた手紙の内容②

２　指示どおりに作業を行いたくない場合のアプローチについて

- 以下のエピソードから、本人はそのつもりはなくても「反抗している」「周りと仲良く折り合う気がない」と他者から映ったり、捉えられないか心配しています。
- 肩書がある等、地位があると思われる方からのアプローチがあれば一時的に改善することはあっても定着に至らないのが現状です。このような場合のアプローチについて何か有効な方策がありましたらご助言をいただきたく存じます。

【WSSP（発達障害者のワークシステム・サポートプログラム）における一例】

- 「指示どおりに作業を行いたくない」と本人が認識する場合、ご本人から変更アイデアの提案をすることがあるが、提案内容が支持者にとって応じられないもので、説得しても自らの意見を変えることはない。
- 「いまの関心事」に注意が向くと、「その他のこと」を考えることが難しい。取り組むべきタスクを必要なタイミングで思い出し行動するために「タスクを書き出す」練習を行ったが、「提案されたことをその通り実践すること」への拒否感から、定着には至らなかった。

主治医の方針

ア　衝動性の対処（一部）

- 衝動性を抑えるのに効果がある薬はあるが、服薬のメリット・デメリットを踏まえて必要するか否かは家族等とよく相談すること。

イ　指示どおりに作業を行いたくない場合のアプローチ

- 現時点ではＷＳＳＰ等で検討した内容をベースにセルフケアの実践や環境調整を続けて効果を検証すること。

ウ　今後の方針について

- 公務員のみならず一般企業や就労継続支援事業所等他の道も模索すること。
- 模索にあたり、これまで学んだ成果を職場実習の場で実践して事業主から見たＡさんの見立てを聞いて進路の検討に役立てること。
- 自立支援医療受給者証等の取得を希望する場合は相談に乗ること。

効　果

母　親

私の考えは
みんなと
一致していた。

Aさんが自立できるよう、情報を集めたり、主治医と相談をしてみよう。

●ご自身の取り組みに自信を深めた。

●生活面についての情報収集や必要なコーディネートを率先して行うようになった。

主治医

プログラムに休まず通うことができましたね。

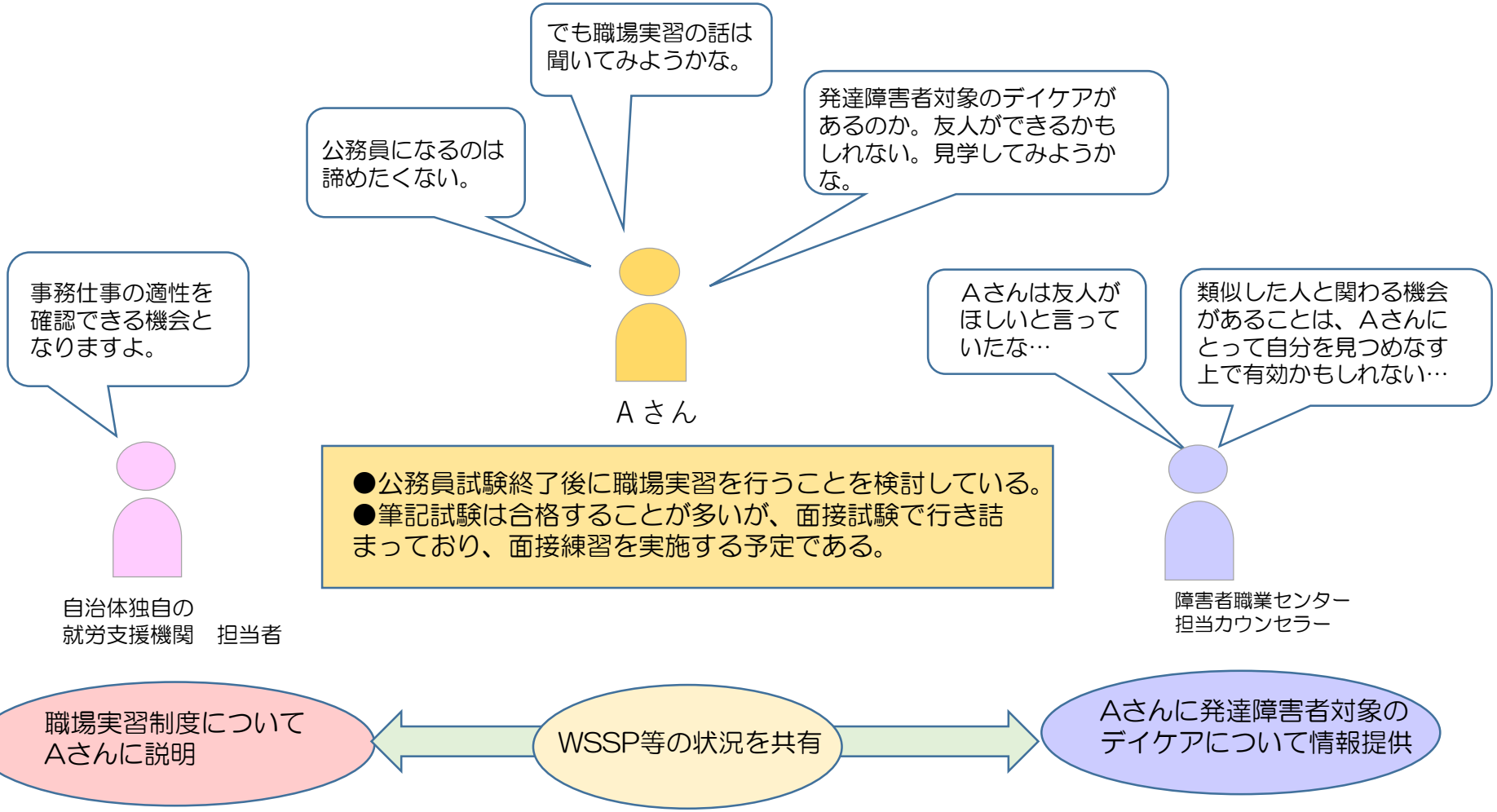
自立支援受給者証の発給が必要であれば、相談してくださいね。

●Aさんが自身の障害について向き合えるようになったことを認めてくださった。

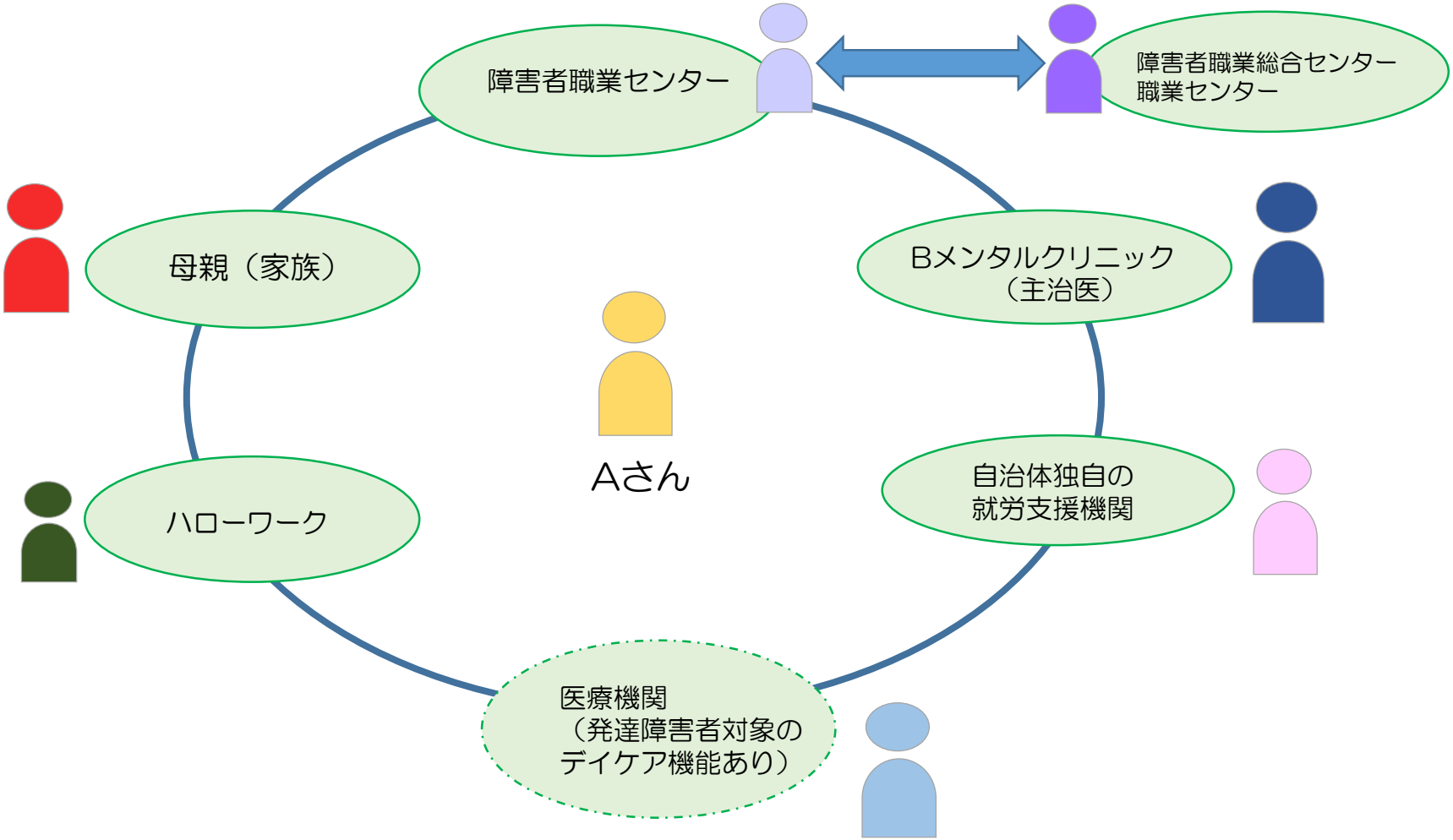
●就職において必要な協力を行う姿勢を示してくださった。
（例）自立支援受給者証の発給に係る必要な手続きの助言

●情報共有の積み重ねにより、センター、家族、メンタルクリニック等が同じ方針の下、Aさんを支援できる体制を整備することができた。

現　状


でも職場実習の話は聞いてみようかな。
公務員になるのは諦めたくない。
発達障害者対象のデイケアがあるのか。友人ができるかもしれない。見学してみようかな。
事務仕事の適性を確認できる機会となりますよ。
Aさんは友人がほしいと言っていたな…
類似した人と関わる機会があることは、Aさんにとって自分を見つめなす上で有効かもしれない…
Aさん
●公務員試験終了後に職場実習を行うことを検討している。
●筆記試験は合格することが多いが、面接試験で行き詰まっており、面接練習を実施する予定である。
自治体独自の就労支援機関　担当者
障害者職業センター担当カウンセラー
職場実習制度についてAさんに説明
WSSP等の状況を共有
Aさんに発達障害者対象のデイケアについて情報提供

Aさんの支援ネットワーク（2022年7月時点）



まとめ

・本人の希望を尊重しつつ、家族やメンタルクリニック等と情報共有を積み重ね、何度もＡさんと関係者間で話し合って継続的に互いの考えをすり合わせながら粘り強く就職に向けて支援している事例

①本人が障害理解を深めながら就職に関する決断を自ら行えるよう…
→支援者としてできることを継続的に伝えつつ、支援状況及び支援方針並びにニーズに即して利用できそうなサービスの情報等を本人及び関係者間でこまめに共有する。

②本人が決断することを負担に感じたり、挑戦して失敗することを過度に恐れないよう…
→提案したことに対して本人に考える時間を与えたり、即断即決は不要な旨を本人に伝える。

③短時間で必要な情報を効果的に関係者間で共有できるよう…
→対面での情報共有のみならず、オンライン面談や面談前の情報提供等、世情やネットワークの構成メンバーの抱える背景や状況、効果を踏まえて情報共有の手法を検討する。

→関係者に対して聴取及び伝達する情報を予め整理する等の必要な事前準備を入念に行う。

最後に　～ご家族からのメッセージ～

- 今回、北海道障害者職業センターや障害者職業総合センター職業センターの担当者、主治医と情報共有しながら本人をサポートしてみて思ったことは、家族としては本人の就職を急がせたい気持ちがあっても、焦らず、本人の気持ちに寄り添いながらサポートすることが大切ということです。

- 北海道障害者職業センターや障害者職業総合センター職業センターの皆様には、本人の希望や気持ちに寄り添い、無理のない進度で支援をしてくださり、ありががとうございます。

- 本人はこれまで定期的にメンタルクリニックを訪問していませんでしたが、家族がほしかった主治医からの意見については、北海道障害者職業センターの担当者が家族と事前に相談をしながら内容を整理した上で主治医との打ち合わせの場に臨んでくださったことで、得ることができました。本人と主治医間での繋がりが復活でき、主治医と家族間でも相談できる関係も築け、よかったです。